

## 第 1 回「林木育種技術戦略委員会」議事要旨

1. 日時：平成 23 年 7 月 11 日（月）13:30～15:40

2. 場所：トラストシティカンファレンス丸の内

3. 議題：1 エリートツリー原種 of 取扱いについて  
2 エリートツリーによる造林初期投資の削減

### 4. 出席者の主な発言内容

- ・エリートツリーの能力が予想通り発揮され、造林コストが大幅に削減されれば非常に素晴らしいことである。初期造林コストは再造林を阻む大きな要因であり、結果的に伐期の長期化、齡級の不均一性などの問題となっている。
- ・林業のあり方、構造が変わる可能性がある。今後の森林施業に関して、この委員会で考えてほしい。
- ・花粉症対策は今後とも重要であると思われるので、選抜母数は多くなるが、エリートツリーでも花粉はこの程度少ないと示し得るようにすることが必要ではないか。
- ・需要サイドから見ると高速育種というものは伐期まで見えていないものであり、評価はしつとも不安が残るので、合理的な説明の検討も進めるべきではないか。
- ・エリートツリー原種を適切に管理していく必要があるのではないか。
- ・デメリットの内容があった場合には、積極的に提示することが普及に良い効果をもたらすと考える。
- ・コンテナ苗木の価格が下がれば自ずと普及するはずであるが、コスト削減手法を具体化していくことが必要だ。
- ・コンテナ苗を使った場合、獣害が減るということであれば普及が早くなると思うが、今後関連データを提示していくことが重要である。
- ・最も育種の効果が上がるような場所はどこであるといった提案をすれば、苗を植える者にとっても良いアドバイスになると考える。
- ・採種園・採穂園の適切な管理のため、「管理技術者の証」等を設けてさらなる管理の適正化を行ってはどうか。
- ・エリートツリーを使ってどのような森林を作っていくのかということを造林者の皆さんと一緒に考えていく必要があるのではないか。